

2025/6月

TSUDOI

【増刊】GOOD銘柄 継続分析レポート(6月)

TSUDOIはブロックチェーンと仮想通貨に特化した情報配信サービスです。

本レポートコンテンツ

◆『狙い目：中堅銘柄』 継続分析ガイド

過去Goodマークを付与した中堅銘柄の継続分析

◆『大穴：新規銘柄』 継続分析ガイド

過去Goodマークを付与した中堅銘柄の継続分析

このレポートはTSUDOIの有料サービス、スタンダードプランの加入者専用の情報です。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。

レポートの読み方については、一覧に含まれる [「必見！成功へ導く3つの仮想通貨投資術」](#)をご覧ください。

継続分析レポートで中堅・大穴銘柄を調査する理由

中堅・大穴銘柄は、成長のポテンシャルが大きい一方でリスクも高いため、注意深い分析と継続的なモニタリングが重要です。これらの銘柄に特に注目し、直近の潜在的な成長機会を探るとともにリスクを管理する分析を行っています。TOP銘柄とは異なる視点から、潜在的な大きなリターンを狙うための情報を提供しています。

**とは**

TSUDOIリサーチチーム内では、関連ニュースから中長期的に注目を集め、価格高騰が期待できると予想した銘柄にGoodマークを付けています。

有料
レポート

過去週次レポート掲載 中堅銘柄 継続分析ガイド

『狙い目：中堅銘柄』 継続分析ガイド

調査・分析方法について

過去週次分析レポートにて高評価（Good）を付与した銘柄に関する継続調査。

この調査では、以下の点に着目して分析を行います。

1. 直近の注目ニュースの有無：過去高評価を得た銘柄が、その後も新たな注目を集めるニュースが発生しているかどうかを調査します。
2. 直近の重要指標推移：銘柄の市場でのパフォーマンスや他の重要な指標がどのように推移しているかを調査します。

これらの要素を総合的に評価し、投資家にとって有益な情報を提供することを目指しています。

2024年以降のGoodマークを付与した銘柄一覧

銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日
Ethereum Name Service	2024年 1/12, 7/26	Biconomy	2024年 4/5	Aerodrome Finance	2024年 9/20
Raydium	2024年 11/22, 2025年 1/24	Metis	2024年 4/26, 5/10	Worldcoin	2024年 11/1
Virtuals Protocol	2024年 12/13	Taiko	2024年 6/7, 11/13	ai16z	2025年 1/17
Starknet	2024年 3/8	Hyperliquid	2024年 12/20	Ethena	2025年 2/7
Manta Network	2024年 3/8, 7/5	Ondo	2024年 6/7, 7/26, 8/9, 9/26, 11/1, 11/22, 12/6	Pyth Network	2025年 2/21
Axelar	2024年 3/14	MANTRA	2024年 7/19	Saros	2025年 4/4
		Jupiter	2024年 8/2	Helium	2025年 4/18
				Stacks	2025年 4/25
				Maple Finance	2025年 6/13

※2023年 Goodマーク付与銘柄：ORDI, Celestia, Blur, Terra Classic

Hyperliquid : HYPE (継続GOOD)

直近の注目ポイント：Hyperliquid躍進—オンチェーン実績が再評価

Hyperliquidは独自L1上に構築された分散型先物取引所。直近のオンチェーン取引高の60%を占め、ArbitrumのUSDCの70%が同取引所に集中している。ネイティブトークンHYPEは先物建玉が20億ドルを超え、DOGEを抜き市場5位に浮上。手数料の97%をトークン買い戻しに充て、機関投資家の参入で流動性も急増中。

Ondo : ONDO (継続GOOD)

直近の注目ポイント：Ondo、XRP基盤で米国債トークン化・需要拡大へ

Ondo Financeは、Rippleと協力し、XRP Ledger上で米国債をトークン化した新商品「OUSG」をローンチした。これにより、機関投資家が24時間いつでも安全・コンプライアンス重視で資産を取引可能に。RippleのRLUSD活用で流動性向上や手数料削減も見込まれ、ONDOの需要は中長期的に増加する可能性が高い。

Helium : HNT (継続GOOD)

直近の注目ポイント：Helium、利用者100万人突破でHNT需要増加へ

5/25 Heliumは、1日あたりの利用者数が100万人を突破する大台を達成した。AT&TやHelium Mobileとの自動連携により、ユーザーが意識せずに分散型ネットワークを利用。今後さらに連携範囲が拡大すれば、ネットワーク利用が一層促進され、HNTトークンのデータ処理報酬の需要が中長期的に高まると予想されている。

Maple Finance : SYRUP (継続GOOD)

直近の注目ポイント：Maple、Lido連携で機関向け融資需要拡大へ

6/12 Maple Finance (SYRUP) はLido Financeと提携し、機関投資家向けにstETHを担保としたステーブルコイン融資を開始しました。これにより機関投資家は資産をステーキングしながら流動性を確保できるため、DeFi市場への参加意欲が高まる見込みです。中長期的には、機関資金の流入が増加し、SYRUPへの需要と市場規模の拡大が期待されます。

Starknet : STRK (要注目)

直近の注目ポイント：tBTC導入でBTC資本流入、STRK需要拡大へ

6/11、BTCを1:1でトークン化した「tBTC」がStarknetで利用可能に、BTC流入については、L2での独自性となっている。BTC保有者がDEXやレンディングを簡単に使えるようになり、DeFi取引が活性化。手数料と今後のステーキング報酬がSTRKの需要を継続的に高め、ガス代増加によるSTRKバーン（焼却）効果も加わり、トークン価値向上が期待される。直近6/15に大規模アンロックイベントを経験。

Aerodrome Finance : AERO (要注目)

直近の注目ポイント：「Coinbase×DEX革命」で始まるAerodrome特需

6/12 CoinbaseはアプリにDEX取引を統合すると正式発表。中央集権取引所の使いやすさに多彩な銘柄を組み合わせ、オンチェーン資産への入り口を刷新します。最初に恩恵を受けるのはTVL首位Aerodromeで、取引増加→手数料増→AERO需要増という好循環が期待されます。ただしガス代無料施策終了後の定着度やUniswapとのシェア競争次第では一過性にとどまる可能性もあり、短期は追い風でも中長期は革新速度と優位性の維持が成否を分けるでしょう。

Stacks : STX (ネガティブニュース)

直近の注目ポイント：Stacks基盤Alexが被害補償

6/6、Stacksブロックチェーン上で運営するDeFiプラットフォーム「Alex Protocol」がスマートコントラクトの脆弱性を突かれ、約830万ドル相当の資産が流出。Alex側は被害者全員にUSDCでの全額補償を表明している。相次ぐセキュリティ問題により短期的な信頼低下は避けられないが、再発防止策の強化次第で中長期的にはSTXトークン需要回復の可能性がある。

継続分析による調査結果(継続分析で特筆すべき注目要因がなかった銘柄)

Virtuals Protocol : VIRTUAL

直近の注目ポイント：I.R.I.S.ローンチでEthereum進出、応募倍率1,500%超で需要拡大へ

6/12、Virtuals ProtocolはEthereum上で初のAIエージェント「I.R.I.S.」のトークンセールを実施。応募倍率は1,500%超を記録。スマートコントラクトを自動監視する実用的なAIの投入で収益化が見込めるため、VIRTUALトークン需要の中長期的な増加に期待が高まっている。

Metis : METIS

直近の注目ポイント：Metis、AI特化ハッカソン開催で需要拡大期待

5/15 MetisはAIに最適化された高性能ブロックチェーン「Hyperion」を活用したハッカソン「HyperHack」を開始。総額20万ドルの賞金を設定し、世界中の開発者が参加。8月のメインネットローンチに向けた技術検証とコミュニティの拡大を通じ、中長期的にMETISトークン需要の高まりが期待される。

Taiko : TAIKO

直近の注目ポイント：BinanceでTAIKOエアドロップ、需要拡大期待

5/31 Binance Alphaは、TAIKOトークンのエアドロッププログラムを開始。205 Alphaポイントと引き換えに130 TAIKOを配布するなど、コミュニティ活性化を推進している。大手取引所でのイベント開催により認知度が高まり、取引活発化が見込まれる。

MANTRA : OM

直近の注目ポイント：MANTRA、農業資産トークン化でOM需要拡大期待

6/4 MANTRAは農業テック企業Dimitraと提携し、カカオや炭素クレジットなど農業資産のトークン化を推進。ブラジルやメキシコでのパイロットプロジェクトを皮切りに、小規模農家への投資をOMトークン保有者が直接可能となる。規制面やRWA展開での実績もあり、今後、実需拡大を背景にOMトークンの需要が中長期的に回復・拡大する可能性がある。

Jupiter : JUP

直近の注目ポイント：Jupiter、融資市場参入でJUP需要拡大へ

5/23 SolanaのDEXアグリゲーターJupiterは、今夏に新たな融資プラットフォーム「Jupiter Lend」をローンチすると発表。最大90%という高い担保比率と低手数料を提供し、流動性プロバイダーFluidとの連携も決定。高利便性の融資市場創出で、今後DeFi分野での需要拡大が期待され、JUPトークンの中長期的な需要増加が見込まれる。

Worldcoin：WLD

直近の注目ポイント：Worldcoin、英国進出でWLD需要拡大期待

6/12 Worldcoinは英国・ロンドンで本人認証サービス「Proof-of-Human」を開始。新規登録者に16WLDを配布するなど積極的なインセンティブを導入し、ユーザー獲得を推進する。過去の同様の施策ではオンチェーン活動の急増が確認されており、今後も英国市場での普及拡大が進み、中長期的にWLDトークン需要が増加する可能性がある。

直近1カ月のGoodマークの継続調査にて、新しい注目要因が見当たらなかった銘柄となります。

進捗なし：Raydium（フォロワー数12カ月連続増加）、Axelar（フォロワー数9カ月連続増加）、Ethena（フォロワー数9カ月連続増加）、Pyth Network（フォロワー数9カ月連続増加）、Saros（フォロワー数2カ月連続増加）

徐々にフォロワー減少中：Ethereum Name Service、Manta Network、Biconomy、ai16z

過去週次レポート掲載 大穴銘柄 継続分析ガイド

Goodマーク大穴・新規銘柄の継続調査

調査・分析方法について

過去週次分析レポートにて高評価（Good）を付与した銘柄に関する継続調査。

この調査では、以下の点に着目して分析を行います。

1. 直近の注目ニュースの有無：過去高評価を得た銘柄が、その後も新たな注目を集めるニュースが発生しているかどうかを調査します。
2. 直近の重要指標推移：銘柄の市場でのパフォーマンスや他の重要な指標がどのように推移しているかを調査します。

これらの要素を総合的に評価し、投資家にとって有益な情報を提供することを目指しています。

2024年以降のGoodマークを付与した銘柄一覧

銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日	銘柄	レポート掲載日
Xai	2024年 1/19	Saga	2024年 4/12	Morpho	2024年 12/6
Manta Network	2024年 1/19	Omni Network	2024年 4/19	NAVI Protocol	2024年 12/13
Ondo	2024年 1/26	Merlin Chain	2024年 4/26	Orca	2024年 12/13
Metis	2024年 1/26	BounceBit	2024年 5/17	Pangolin	2024年 12/20
Dymension	2024年 2/9	Taiko	2024年 6/7	Origin Protocol	2024年 12/6
Aevo	2024年 3/14	io.net	2024年 6/14	Velodrome Finance	2024年 12/20
ether.fi	2024年 3/22	Artificial Superintelligence Alliance	2024年 7/5	DeepBook Protocol	2025年 1/10
Ethena	2024年 4/5	LayerZero	2024年 7/5	Arcana Network	2025年 1/17
Wormhole	2024年 4/5	SaucerSwap	2024年 11/22	RedStone	2025年 3/14

※2023年 Goodマーク付与銘柄：Arkham

※Manta Network、Metis、Taiko、Ondo、Ethenaは中堅銘柄として注目要因を考察しておりますので、新規銘柄のトピックでは割愛致します。

RedStone : RED (GOOD)

直近の注目ポイント：RedStone、Solanaで機関資産統合・需要拡大へ

5/29 RedStoneはSecuritizeおよびR3と提携し、Solanaブロックチェーン上にトークン化された実世界資産（RWA）を統合。これによりSolanaのDeFiプロトコルが機関投資家向け資産を担保として活用可能となり、伝統金融との相互運用性が向上。機関投資家の参入促進に伴い、中長期的にREDトークン需要が拡大する可能性が高まっている。

BounceBit : BB (要注目)

直近の注目ポイント：BounceBit、BUIDL活用の高利回り戦略導入

BounceBitはBlackRockのトークン化ファンド「BUIDL」を担保にしたビットコイン取引戦略を試験運用し、年率24%以上の高収益を実現した。安定資産を活用することで従来の戦略より高利回りを提供可能となり、機関投資家と個人投資家向けに展開予定。これにより今後BBトークンの実需が高まり、中長期的な需要増加が見込まれる。

Orca : ORCA (要注目)

直近の注目ポイント：Orca、変動手数料導入で流動性向上・需要増へ

6/4 DeFiプロトコルのOrcaは、市場の変動性に応じて手数料を動的に調整する新たな仕組み「Adaptive Fees」を導入した。これにより取引環境の安定化や流動性改善が見込まれ、市場競争力の強化を図っている。また最近行われたトークンの25%焼却と相まって、中長期的にORCAトークンの希少性が高まり需要増加が期待されている。

Origin Protocol : OGN (要注目)

直近の注目ポイント：Origin、収益全額還元でOGN需要増加見込み

6/6 Origin Protocolはプロトコル収益の100%をOGNトークンの買戻しに充て、ステーキング保有者（xOGN）に分配すると発表した。これはOETHやOUSDなど主力製品の収益を直接還元するもので、ステーキング参加者が増加し、需給バランスが改善される見込み。中長期的にOGNトークンの需要が高まり、価格の安定化や上昇が期待される。ただし、時価総額が低い銘柄の場合、買い戻しによる流動性低下やボラティリティ増大といった逆効果も考えられる。

継続分析による調査結果(継続分析で特筆すべき注目要因がなかった銘柄)

Aevo : AEVO

直近の注目ポイント：Aevo、毎月買戻しでAEVOトークン安定化へ

Aevoはコミュニティ投票でAGP-2提案を承認し、2025年5月から7月まで毎月100万AEVOトークンを買い戻すプログラムを開始。買戻しによる供給量の削減と価格安定化を図り、投資家の信頼感向上が期待されている。今後も継続的なコミュニティ主導の施策により、AEVOトークンの需要が中長期的に拡大する可能性が高い。ただし、時価総額が低い銘柄の場合、買い戻しによる流動性低下やボラティリティ増大といった逆効果も考えられる。

Ether.fi : ETHFI

直近の注目ポイント：ether.fi、Discord侵害も被害軽微で収束へ

6/7 ether.fiの公式Discordが不正アクセスを受け、フィッシング詐欺リンクが拡散された。迅速な対応で資産流出やプロトコルへの影響はなかったが、ユーザーには警戒が促されている。過去にも類似の事件がDeFi分野で発生しており、再発防止の強化策と透明な対応を継続すれば、ETHFIトークンへの中長期的な影響は限定的で、需要回復の見込みは高い。

Omni Network : OMNI

直近の注目ポイント：Omni、大型報酬プログラムでユーザー増加促進

Omni Networkは、相互運用性とスケーラビリティに優れた革新的なブロックチェーンであり、現在インセンティブ付きのテストネットを実施中。初期参加者向けに総額1,000万ドル相当の報酬を提供しており、ユーザー基盤が拡大している。今後、Symbioticをはじめとするパートナーシップの増加に伴い、OMNIトークンの中長期的な需要増加が期待される。

直近のGoodマークの継続調査にて、新しい注目要因が見当たらなかった銘柄となります。

進捗なし：Wormhole（フォロワー数3カ月連続増加）、LayerZero（フォロワー数10カ月連続増加）、SaucerSwap（フォロワー数7カ月連続増加）、Morpho（フォロワー数9カ月連続増加）、Navi Protocol（フォロワー数6カ月連続増加）、Deepbook Protocol（フォロワー数10カ月連続増加）、Arcana Network（フォロワー数先月より増加）

徐々にフォロワー減少中：Xai、Dymension、Saga、Merlin Chain、io.net、Pangolin、Velodrome Finance

引用元：

本レポートにおけるデータおよび分析は、以下の情報源を基にしています。

- CoinMarketCap : <https://coinmarketcap.com/>
- CoinCarp : <https://www.coincarp.com/>
- Messari : <https://messari.io/>
- TokenInsight : <https://tokeninsight.com/>

注意事項

本レポートは、投資助言を提供するものではありません。提供される情報は、一般的な解説に限定されており、個別の投資判断に直接適用するものではありません。投資に関する最終決定とその結果について、当方は一切の責任を負いません。レポートの内容は個人的な使用のみを対象としており、商業的な利用は事前の許可が必要です。商業利用に関するお問い合わせは下記よりご連絡ください。

発行元：TSUDOI

メールアドレス：info@sigmainc.co.jp

ウェブサイト： <https://tsudoi-platform.co.jp/>